

2008年12月の東北地方の天候

【12月の特徴】

- 高温
- 多雨

(1) 2008年12月の概況

この期間、平年に比べ日本の東海上で高気圧が強く、日本海を進む低気圧や沿海州付近の気圧の谷に向かって暖かい南風が入ったため、東北地方は高温となった。下旬の後半には強い冬型の気圧配置となる日もあったが、その他の期間は冬型の気圧配置となる日は少なく、低気圧と高気圧が交互に日本付近を通過したため、前線や低気圧の影響を受けて、東北地方は東北南部を中心に多雨となった。

月平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側でかなり高い。月降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。月間日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。降雪の深さの月合計平年比は東北北部で48%で少なく、東北南部で72%で平年並。

(2) 各旬の天候経過

上旬：冬型の気圧配置は一時的で、低気圧や高気圧が交互に日本付近を通過し、天気は数日の周期で変化した。5日の寒冷前線通過後、6日から8日にかけて一時冬型の気圧配置となり、寒気が南下し低温となったが、その他の期間は、日本海を進む低気圧や沿海州付近の気圧の谷に向かって暖かい南風が入ったため、気温の高い日が多くた。また、東北太平洋側や東北南部では、5日の寒冷前線や9日から10日かけて本州南岸を通過した低気圧の影響により降水量が多くた。

平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。日照時間は東北北部で多く、東北南部で平年並。

中旬：冬型の気圧配置は一時的で、低気圧や高気圧が交互に日本付近を通過し、移動性高気圧におおわれて晴れの日もあった。期間を通して寒気の南下は弱く、日本海を進む低気圧や沿海州付近の気圧の谷に向かって暖かい南風が入ったため、高温となった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北北部で多く、東北南部で少ない。日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。

下旬：期間の前半は前線や気圧の谷が通過し、期間の後半は冬型の気圧配置となる日が多く、曇りや雪または雨の日が多くた。特に25日の寒冷前線通過後、26日から28日にかけて強い冬型の気圧配置となり荒れた天気となった。期間のはじめに東北北部に前線が停滞しその前線上を低気圧が通過したことと、期間の後半は冬型の気圧配置となる日が多くたことから、東北北部や東北日本海側では降水量が多く、日照時間は少なかつた。

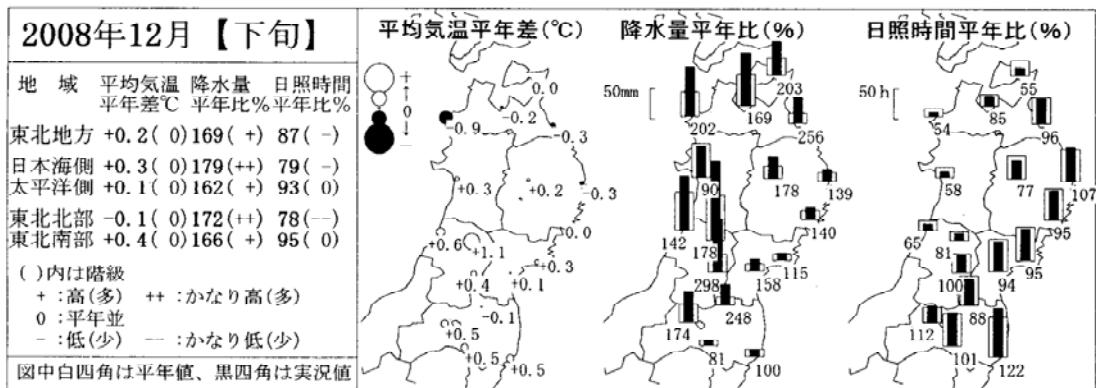
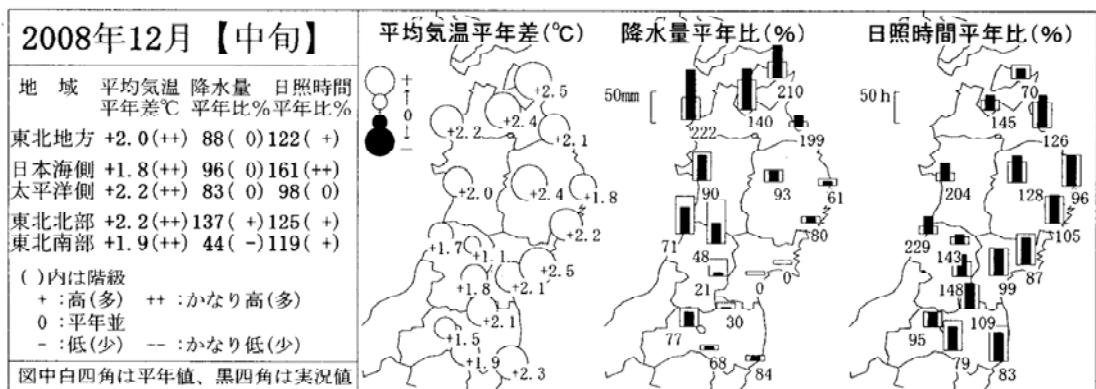
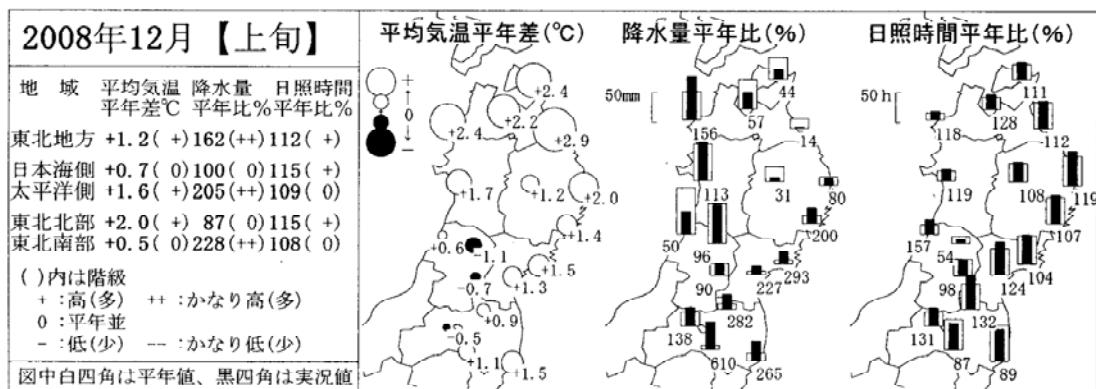
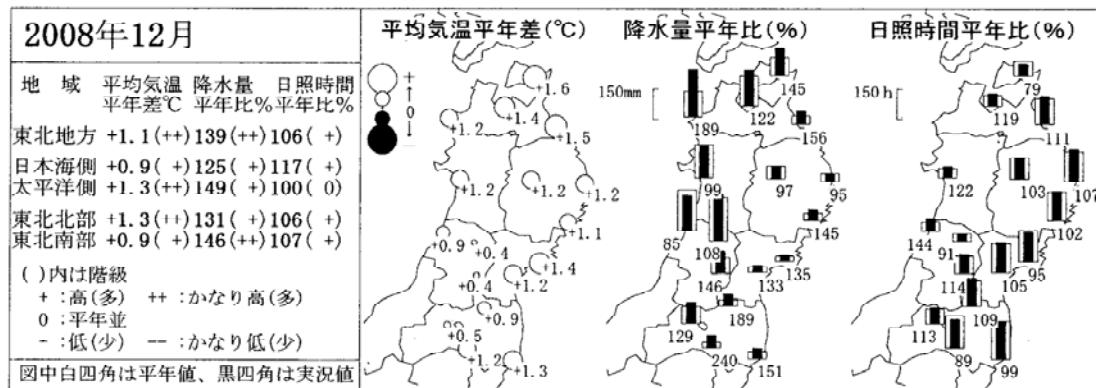
平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で平年並。

(注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2008年12月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2008年12月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数		日照時間(平年比)		階級	降雪深さ(平年値)		階級	最深積雪(平年値)		
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)		≥1mm	(h)	(%)	(cm)		(cm)	(cm)		(cm)	(cm)	
青 森	2.7	(+1.4)	+*	182.0	(122)	+	21	64.9	(119)	+	96	(170)	-*	20	(51)	-*	
深 浦	3.7	(+1.2)	+	238.5	(189)	+*	20	25.0	()	-	45	(77)	-	9	(17)	○	
(統計日数:19)																	
む つ	2.8	(+1.6)	+*	135.0	(145)	+*	18	58.4	(79)	-	73	(101)	-	19	(24)	○	
八 戸	3.1	(+1.5)	+*	65.0	(156)	+*	5	142.8	(111)	+	40	(52)	○	15	(10)	+	
秋 田	4.0	(+1.2)	+*	162.0	(99)	○	21	58.3	(122)	+	21	(79)	-*	8	(16)	-	
盛 岡	2.0	(+1.2)	+	62.5	(97)	○	11	107.5	(103)	○	39	(68)	-	21	(17)	○	
大 船 渡	4.6	(+1.1)	+*	53.5	(145)	+	8	142.5	(102)	○	2	(11)	-	2	(4)	○	
宮 古	4.2	(+1.2)	+	38.0	(95)	○	6	162.6	(107)	+	3	(19)	-	3	(6)	○	
仙 台	5.5	(+1.2)	+	35.0	(133)	+	8	151.5	(105)	○	7	(14)	○	5	(7)	○	
石 卷	4.8	(+1.4)	+*	33.5	(135)	+	8	147.2	(95)	-	2	(7)	○	1	(5)	-	
山 形	2.8	(+0.4)	○	113.0	(146)	+	17	96.7	(114)	+	102	(92)	○	41	(23)	+	
新 庄	1.8	(+0.4)	○	228.0	(108)	○	20	33.8	(91)	○	131	(168)	○	46	(50)	○	
酒 田	5.2	(+0.9)	+	172.5	(85)	-	18	64.5	(144)	+*	20	(64)	-*	6	(13)	-	
福 島	5.1	(+0.9)	+	61.5	(189)	+*	11	141.9	(109)	+	47	(35)	+	26	(10)	+*	
若 松	2.4	(+0.5)	○	107.5	(129)	+	17	81.5	(113)	+	67	(100)	-	29	(28)	○	
白 河	3.8	(+1.1)	+	60.0	(240)	+*	7	141.1	(89)	-	18	(25)	○	8	(8)	○	
小 名 浜	7.4	(+1.3)	+*	53.0	(151)	+	6	182.8	(99)	○	()	()	()	()	()	()	

(注) 1. 平年値は1971~2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めた。

また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を附加した。この場合には

と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深

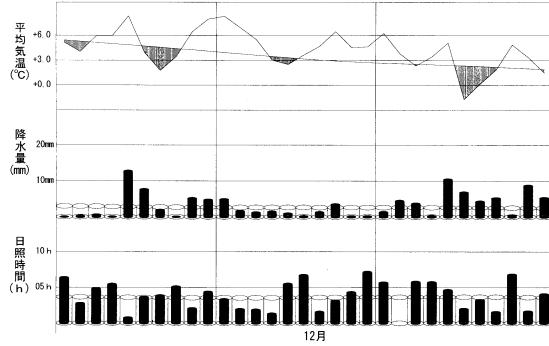
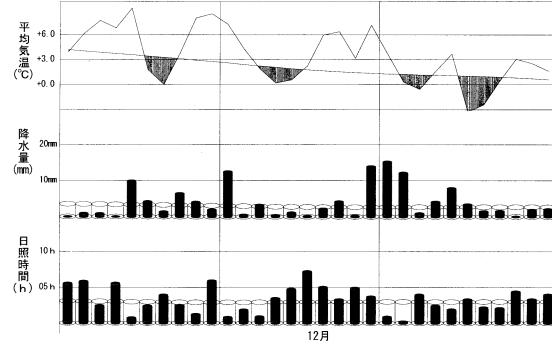
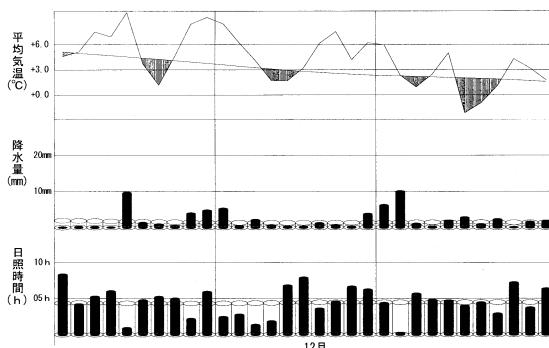
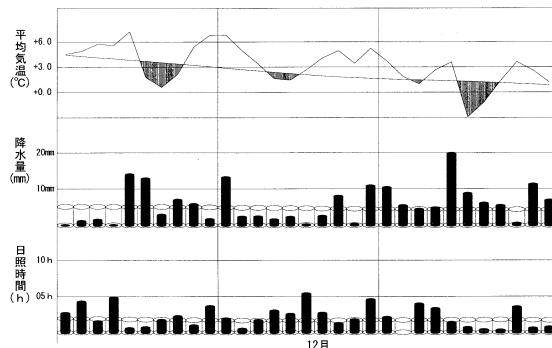
値の横に「」や「」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ（日別値）に欠測等による問題がある。

が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

4. 小名浜測候所が平成 20 年 10 月 1 日に特別地域気象観測所へ移行したことに伴い、小名浜の降雪および積雪の観測は終了した。

(5) 2008年12月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2008年12月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新
3位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新
3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	深浦	238.5	189	215.5 (2004)	1940	126.2

月降水量少ない方からの順位更新
3位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
3	酒田	64.5	144	70.2 (1941)	1937	44.8

月間日照時間少ない方からの順位更新

3位以内はなし

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新

3位以内はなし

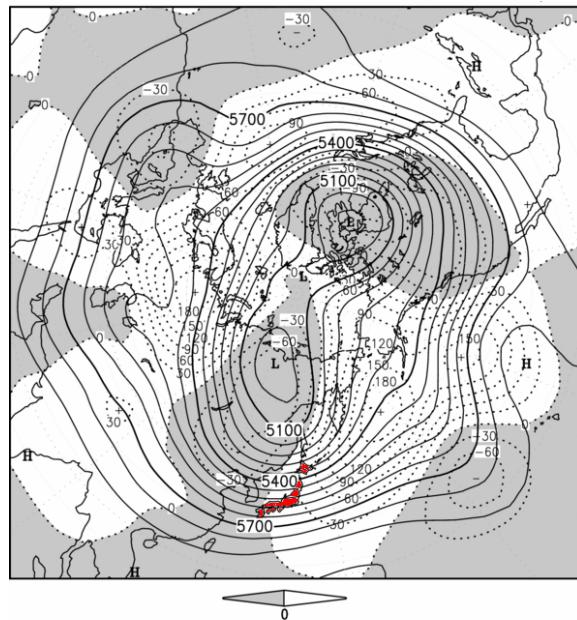
月最深積雪大きい方からの順位更新

3位以内はなし

(注) 平年値とは 1971~2000 年の 30 年間の値を平均したものである。

(7) 2008 年 12 月の循環場の特徴

日本の東海上で、高度が平年に比べ非常に高かった。これは、地上付近でアリューシャン低気圧が非常に弱く、日本付近が冬型の気圧配置にならずに移動性高気圧におおわれ、日本の東海上が高気圧になりやすかつたことに対応している。このため、日本海を進む低気圧や沿海州付近の気圧の谷に向かって暖かい南風が入りやすく、東北地方は高温となつた。



2008 年 12 月の平均 500hPa 高度

実線は等高度線 : 60m 毎、点線は偏差 : 30m 毎
陰影部は負偏差 (寒気に対応)